

## 平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

地域産業の担い手を育成する教育活動を展開し、地域に信頼され、誇りとされる、地域に根ざした学校をめざす。

1. 基本的な生活習慣やルール・マナーなどの規範意識を身につけた自律できる生徒を育成する。
2. ものづくり教育・工業教育の基盤ともいえる基礎学力をしっかりと身につけた生徒を育成する。
3. 生徒のモチベーションを高め、教職員の技量を高め、ものづくり教育の充実を図る。
4. 社会人・職業人として自立し、豊かな心と人権感覚をもった社会に貢献する多様な人材を育成する。

## 2 中期的目標

## 1 豊かな社会性をもった人間の育成

- (1) 相手を思いやる人権感覚豊かな優しい心を育成するとともに、社会の秩序・ルールを進んで守る規範意識を醸成する。  
ア あいさつの励行や遅刻をしないなどの基本的な生活習慣を身につけた生徒の育成に努める。  
※8年前の平成18年度には7000を超えていた遅刻数は、平成25年度には741と大幅に減少した。今後も1000以下を維持する。
- (2) 美化・清掃活動の強化を通して、個々の生徒の規範意識の醸成と情緒の安定を図る。  
ア 美化・清掃活動に全校で取り組む。  
※生徒向け学校教育自己診断の「校内美化」に関する項目における満足度（平成25年度54%）を毎年2%引き上げ、平成28年度には60%にする。

## 2 確かな学力への取り組み

- (1) 「分かる授業・充実した授業」をめざして授業改善に取り組む。  
ア 学校設定科目「基礎教養」を設定し基礎学力の充実を図るとともに、授業公開や授業アンケートを通していっそうの授業改善に努める。  
※生徒向け学校教育自己診断の「学力の向上」に関する項目における肯定度（平成25年度76%）を毎年引き上げ、平成28年度には80%にする。  
※就職内定率100%を維持する。  
※生徒向け学校教育自己診断の「授業の工夫」に関する項目における肯定度（平成25年度52%）を毎年引き上げ、平成28年度には60%にする。

## 3 ものづくり教育の充実

- (1) ものづくりのための実践的な技術力の向上に取り組む。  
ア 保護者からの支持も多い各種資格取得や検定試験をさらに推奨するとともに、そのための講習を充実する。  
※資格の取得者や検定試験の受験者数（平成25年度1426人）及び合格率（平成25年度61%）を維持する。
- (2) ものづくり教育を充実させることで生徒のモチベーションを高め、各種連携を通じてものづくりに興味・関心をもつ児童・生徒を育てる。  
ア 成果発表の場やさまざまな競技会などに積極的に生徒を参加させるなど、ものづくり教育の充実を図ることで生徒のモチベーションの高揚に努める。また、特色ある工科高校の施設・設備や人材の活用を図り、「ものづくり教室」や「出前授業」を小・中学校や行政機関と連携して実施することにより、ものづくりに興味・関心をもつ児童・生徒を育てる。  
※成果発表の場やさまざまな競技会などへの参加回数及び「ものづくり教室」や「出前授業」の実施回数の合計（平成25年度11回）を維持する。
- (3) さまざまな活動を通して、地域への貢献と地域に根ざした学校づくりをめざすとともに、ものづくりを通して保護者との連携を強める。  
ア 豊かな創造力や問題解決能力の育成を図るなど、起業家精神をもった人材の育成をめざして設立した「城工房」をいっそう推進することにより、地域貢献に努めるとともに地域に根ざした学校づくりをめざす。  
※平成24年度に会社（LLC法人）となった「城工房」において、新たな取組みを推進する。  
イ 保護者－学校が一体となった学校づくりを行う。  
※保護者のものづくり教育への理解を深めるために、本校PTAと連携した事業に取り組む。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成26年12月実施分]	学校協議会からの意見
<p>1. 生徒と教員の比較</p> <p>「生徒は意欲的に学習している」という項目に対する教員の肯定的な回答は39%で、非常に厳しいものであった。しかし、肯定的な回答が50%以下であった項目は教員のこの項目だけで、生徒の回答では皆無であった。</p> <p>(1) 生徒と教員ともに肯定的な回答が少なかった1項目</p> <p>「校内の清掃は行き届いていると思いますか」について、肯定的な回答が、生徒では62%、教員では56%となっている。特に、廊下・階段・トイレが課題と指摘されている。肯定的な回答の割合が昨年より増加したものの、昨年に引き続いての課題である。来年度は、新たな視点で改善策を模索していく必要がある。</p> <p>(2) 生徒と教員の回答に隔たりがあった2項目</p> <p>「学力が身についた」と回答した生徒は79%であるのに対し、教員は39%となっている。生徒は実習に教員は座学に重点を置いて回答しているようである。これからも基礎学力を含めた座学の授業の充実に取り組んでいきたい。</p> <p>「授業は分かりやすく楽しい」と回答した生徒は66%であるのに対し、「分かりやすい授業を行うため、創意工夫を凝らしている」と回答した教員は97%であった。さらなる工夫を積み重ねるとともに、教員の努力が結果に結びつくよう考えていきたい。</p> <p>(3) その他</p> <p>「先生は校則を守らない生徒や生活態度の悪い生徒に対して、注意している」と回答した生徒の割合は、今年度も全設間中二番目に高かった。学校全体で生徒指導に取り組んできた成果といえる。</p> <p>2. 生徒の昨年との比較</p> <p>問2を除く全14項目のうち、問1では肯定的な回答が若干減少したが、それ以外の13項目では肯定的な回答が増加した。1年間の取り組みの成果といえるであろう。</p> <p>特に、「授業は分かりやすく楽しい」と回答した生徒は52%から66%に14%増加し、「校内の清掃は行き届いていると思いますか」については肯定的に回答した生徒が54%から62%に8%増加した。2項目とも課題となっている項目であり、今年度肯定的な回答が大きく増えたことを念頭に、来年度以降も努力を続けていきたい。</p>	<p>第1回（5月21日）</p> <p>①学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『何のために働くのか?』をもっと考えさせる取り組みも考えてほしい」との意見が出されましたが、今年度より導入した学校設定科目「基礎教養」を通じた基礎学力向上への期待などの意見も出され、協議の結果、学校の状況を踏まえた分かりやすい計画であると了承されました。</li> </ul> <p>②入学生アンケートについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「城東工科高校の状況がよくわかるアンケートである」との意見をいただきました。</li> </ul> <p>第2回（10月15日）</p> <p>①学校経営の自己評価（中間報告）について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「評価の根拠を示し、その根拠に基づいて今後の課題を示してほしい」との要望や「学校のしていることの「見える化」の様子、特に、保護者へのアピールの様子がよく分かる」との意見が出され、協議の結果、了承されました。</li> </ul> <p>②学校教育自己診断の診断内容について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「昨年の提言を踏まえた改良がなされている点は評価できる」との意見が出され、協議の結果、了承されました。</li> </ul> <p>第3回（1月28日）</p> <p>①学校経営の自己評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「評価指標を数値でしっかりと示し、一項目を除くすべての項目で達成できている点は評価できる」や「教員の取組み姿勢への変化が生じていることや若手教員の育成と活用もうまくいっている様子がよく分かる」などの意見が出され、協議の結果、了承されました。</li> </ul> <p>②学校教育自己診断の診断内容について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「生徒と教員の回答に隔たりがある項目があるが、その原因についても分析している点は評価できる」との意見が出され、協議の結果、了承されました。</li> </ul>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 豊かな社会性をもった人間の育成	<p>(1) 相手を思いやる人権感覚豊かな優しい心の育成と社会の秩序・ルールを進んで守る規範意識の醸成</p> <p>ア 「笑顔のあいさつ運動」の推進</p> <p>イ 遅刻指導の推進</p> <p>(2) 美化・清掃活動の強化を通じた、個々の生徒の規範意識と情緒の安定の醸成</p> <p>ウ 全校的な美化・清掃活動</p>	<p>ア・毎朝校門で校長と教職員が実践するとともに、集会のたびに必ず「笑顔のあいさつ運動」を取り上げ生徒の意識を喚起する。</p> <p>イ・遅刻の撲滅をめざし、生活指導部と学年による早朝登校指導を実施する。</p> <p>ウ・美化・清掃活動に全校で取り組む中で、生徒の規範意識と情緒の安定を醸成する。</p>	<p>ア・生徒向け学校教育自己診断における「あいさつ」への肯定率 38% (平成 25 年度 36%)</p> <p>イ・遅刻数 1000 以下の維持 (平成 25 年度 741)</p> <p>ウ・生徒向け学校教育自己診断の「校内美化」に関する項目における満足度 56% (平成 25 年度 54%)</p>	<p>ア・「あいさつ」への肯定率は 44%であった。目標の 38%を達成することができた。来年度も地道に取り組んでいきたい。(◎)</p> <p>イ・早朝登校指導が実を結び、遅刻数は 562 と大幅に減少し、目標の 1000 以下を達成することができた。来年度も全校あげて取り組んでいきたい。(◎)</p> <p>ウ・保健部、生徒会などが有機的に連携しながら取り組み、満足度は 62%になり、目標の 56%を達成することができた。来年度は、新たな視点で改善策を模索していきたい。(◎)</p>
2 確かな学力への取り組み	<p>(1) 「分かる授業・充実した授業」をめざした授業改善への取り組み</p> <p>ア 基礎学力の充実</p> <p>イ 授業改善の推進</p>	<p>ア・学校設定科目「基礎教養」を設け、授業内容の精選を図りながら、基礎学力の充実に努める。</p> <p>イ・授業公開期間中に若手教員を中心とする勉強会を実施し、若手教員の育成の場とする。また、生徒向け学校教育自己診断の「授業の工夫」に関する項目および生徒による授業アンケートの結果から見えてくる課題について各教科・系で検討し、授業改善に反映させる。</p>	<p>ア・生徒向け学校教育自己診断の「学力の向上」に関する項目における肯定度 78% (平成 25 年度 76%)</p> <p>・就職内定率 100%を維持</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断の「授業の工夫」に関する項目における肯定度 54% (平成 25 年度 52%)</p>	<p>ア・肯定度は 79%で、目標の 78%を達成することができた。また、「基礎力診断テスト」からは明らかな基礎学力の向上がみられた。(◎)</p> <p>・就職内定率 100%を維持できた。(◎)</p> <p>イ・肯定度は 66%で、目標の 54%を達成することができた。来年度も現在の取組みを継続していきたい。(○)</p>
3 ものづくり教育の充実	<p>(1) ものづくりのための実践的な技術力向上への取り組み</p> <p>ア 各種資格取得や検定試験の推奨と講習の充実</p> <p>(2) 生徒のモチベーションの高揚とものづくりに興味・関心をもつ児童・生徒の育成</p> <p>イ 成果発表の場やさまざまな競技会などへの生徒の参加、および「ものづくり教室」や「出前授業」の充実</p> <p>(3) 地域への貢献と地域に根ざした学校づくりの推進</p> <p>ウ 地元企業の協力による 1 年全員参加のインターンシップの実施</p> <p>エ 起業家精神をもった人材の育成をめざして設立した「城工房」のいっそうの推進</p> <p>オ 保護者－学校が一体となった学校づくりの推進</p>	<p>ア・保護者からの支持も多い各種資格取得や検定試験をさらに推奨するとともに、そのための講習を充実する。</p> <p>イ・成果発表の場やさまざまな競技会などに積極的に生徒を参加させるなどで生徒のモチベーションの高揚に努める。また、特色ある工科高校の施設・設備や人材の活用を図り、「ものづくり教室」や「出前授業」を小・中学校や行政機関と連携して実施することにより、ものづくりに興味・関心をもつ児童・生徒を育てる。</p> <p>ウ・1 年生をインターンシップに全員参加させることで、職業意識を早期に確立させる。</p> <p>エ・豊かな創造力や問題解決能力の育成を図るなど、起業家精神をもった人材の育成をめざして設立した「城工房」をいっそう推進することにより、地域貢献に努めるとともに地域に根ざした学校づくりをめざす。</p> <p>オ・保護者のものづくり教育への理解を深めるために、本校 P T A と連携した事業に取り組む。</p>	<p>ア・資格の取得者や検定試験の受験者数 (平成 25 年度 1426 人) 及び合格率 (平成 25 年度 61%) の維持</p> <p>イ・成果発表の場やさまざまな競技会などへの参加回数及び「ものづくり教室」や「出前授業」の実施回数 (平成 25 年度 11 回) の維持</p> <p>ウ・生徒および協力企業へのアンケートによる評価(それぞれ約 15 項目、1 項目 5 点満点) で平均 3.2</p> <p>エ・新たな取組みの推進状況</p> <p>オ・P T A と連携した事業の実施状況と P T A 役員による評価</p>	<p>ア・学校全体で取り組んだ結果、受験者数 (1220 人) は目標に届かなかったものの、合格率 (73%) は目標を達成することができた。来年度も現在の取組みを継続したい。(○)</p> <p>イ・成果発表の場やさまざまな競技会などへの参加回数及び「ものづくり教室」や「出前授業」の実施回数の合計は 12 回となり、目標の 11 回を達成することができた。これらの取組みを実施することによって、生徒のモチベーションを高め、本校のアピールともなるので、来年度も現在の取組みを継続していきたい。(○)</p> <p>ウ・アンケートの評価方法を変更したため、5 点満点に換算した。その平均値は、生徒 4.3・企業 3.9 で、目標を大きく上回ることができた。しかし、多くの課題も浮き彫りになっている。来年に向け検討を重ねていきたい。(○)</p> <p>エ・スマートフォンの GPS 機能を応用した観光案内アプリを能勢高校と連携して開発するとともに、地域や地元企業との連携の母体として「城工メッセ」を設立するなど大きな成果をあげている。(◎)</p> <p>オ・昨年に引き続き「P T A 工業実習研修」を実施した。昨年の 1.5 倍の保護者の参加があり、非常に好評であった。(◎)</p>